

教育目標(めざす児童生徒像)		今年度の指導の重点
学校教育	夢をもち 心豊かに たくましく 生きる子どもを育てる	1 基礎基本的な学習内容の確実な定着を図るとともに、ICT等の様々なツールを活用したアクティブラーニングによる思考力・判断力・表現力の育成をする。 2 豊かな学校行事や体力向上プログラムを設定して健やかな体づくりをさせ、目標や夢に向かって、意欲的に努力し続ける元気な子を育成する。 3 凡事徹底(挨拶・返事・靴揃え)を図り、規範意識を育てるとともに、道徳授業や縦割り班活動等を活用して、自他の良さを認め合い相手の気持ちを考えた行動がとれる豊かな心を育む。 4 郷土を学びの場とする多様な体験活動を充実させ、社会的・職業的自立に必要な態度、郷土愛、社会を支える自覚と高い志を育成する。 5 ケース会議や教育相談を通して、児童理解を深め、児童のニーズを把握して、個別の支援計画や指導計画を有効に活用して、TT指導等の特別支援体制の充実を図る。 6 危機管理の徹底と安全教育の充実、安心のある教育環境づくりをし、広く学校情報を発信する。
めざす子ども像	考える子 がんばる子 やさしい子 郷土を愛する子	

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 全国 ○国語A 算数A 算数B については、県平均と同等。 ○国語Bについては、県平均と比べて正答率は低い。 ○国語Bの「話すこと・聞くこと」の領域について課題がある。 県 ○「伝統的な言語事項」「読むこと」に関する問題の正答率は、県平均より低い。 ○「書くこと」に関して決まった字数や文章構成で書くことが苦手な児童が多い。 ○「数と計算」については定着してきているが、学年差がある。	【学習状況調査の結果】 ○あいさつは、よくできている。 ○将来の夢や目標を持っている児童が県平均より高い。 ○授業のはじめに学習のねらいや目標が示された授業ができていると感じている児童が多い。 ○「読書は好きですか」という項目では、7割程度の児童が好きだと回答している。 ○家庭学習は、全員1時間以上取り組むことができている。 ○ほとんどの児童が、学校に来るのは楽しい、友達に会うのは楽しいと感じている。 ○友達の前で自分の考えや意見を発表することを得意としている児童は、県平均より高い。 ○1日のゲームをする時間が3時間以上の児童が県平均より多く、また、反対に、1時間未満と答えた児童が県平均よりも多い。ゲームについては、個人差が大きい。

成果	課題
○「めあて」「まとめ」「振り返り」のある授業を意識しておこなうことにより、児童が見通しをもって学習に取り組むことができるようになった。 ○各家庭に配付している家庭学習のきまりを意識させることで、家庭学習の内容が充実してきた。その結果、算数の基礎的な問題については定着してきている。 ○ほとんどの児童が、学校は楽しい、友達と会うのは楽しいと感じており、夢や目標を持っている。	○国語の読解力を高める必要がある。 ○自分の考えを説明したり文章を書いたりする活動を充実させる必要がある。 ○算数の基礎的な問題の定着に学年差がある。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
確実な読みの力を育てる。	年度末	○国語B問題の正答率を上げる。	○問題データベースを活用する。 ○朝学習に国語の読解力小テストをする。 ○資料と文、文と文を関連づけて読み取る活動を入れた授業をおこなう。	○データベース、小テスト、プリント問題の活用と授業改善により、読み取りに苦手意識をもつ児童が減少してきた。	B	○朝学などでB問題に取り組み、読解に苦手意識を持つ児童が減った。	B	○来年度、木曜日の朝学習を国語発展問題にあてる。 ○来年度も校内研修で説明文の研修を行い、文と文をつないで読み取る授業を職員で共通理解する。
算数の基礎基本の定着を図る。	年度末	○全学年が県平均を上まわる。	○問題データベースを活用する。 ○朝学習や算数チャレンジ・家庭学習の充実を図り基礎・発展問題に取り組む。	○問題データベース、朝学や算数チャレンジで基礎・発展問題に取り組む、基礎基本の定着が向上してきた。	B	○問題データベース、朝学や算数チャレンジで基礎・発展問題に取り組む基礎基本の定着が向上してきた。	B	○基礎基本の学習については、各学年、算数の時間に繰り返し練習し、定着をはかる。 ○来年度、水曜日の朝学習を算数発展問題にあてる。
書く力を育てる。	年度末	○80%の児童が条件に合わせた文章を書くことができる。	○条件に合わせた文章を書くことができるようにする。	○各学年で、文章を書く活動を取り、条件に合わせた文章を書くことのできる児童が増えてきた。	B	○各学年で書く活動を多く取り、条件に合わせた文章を書くことのできる児童が増えた。	B	○各学年で書く活動に取り組む。 ○条件に合わせた文章を書く活動の時間をとる。(文字制限、意見文など)

※達成度 「S:目標を多きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○メディアコントロールの取り組み ○キャリア教育の取り組み ○久米中ブロック主任・主事会における情報交換	○学習状況調査 ○家庭学習の推進 ○基本的な生活習慣の支援